



近一だより

旭川市立近文第一小学校
令和6年度 第9号
令和6年12月25日発行

学校の役割

校長 安藤 陽

本日で2学期が終了しました。まだまだ真夏の日差しが強い8月から、しっかりと雪が降り積もった12月まで、1年で一番長い学期でしたが、子どもたちは「学びいっぱい、笑顔いっぱい、元気いっぱい」の学校生活を送ってきました。この間、学習発表会などの大きな行事もありましたが、どの児童も、自分の役割をしっかりと果たそうと一生懸命取り組んだり、友達と協力してやり遂げる喜びを感じたりすることができたと思います。近文第一小学校に着任して間もなく9か月になりますが、子どもたち一人一人の成長や可能性の大きさを感じる中で、学校の役割とは何であるのかということを改めて考えています。

人は誰もが幸せな人生を送りたいと願っています。「幸せな人生」に必要なものは何か、ハーバード大学が調査をもとに80年かけて結論を出しています。これによると、幸せな人生に必要なものは、家柄や学歴、年収、老後資金の有無などではなく、「身近な人とのよりよい人間関係」でした。互いに安心できる相手がいるか、本当の自分を出せる人があるかが重要だということです。学校の役割とは、まさにこのよりよい人間関係づくりを様々な活動を通して学び合いながら成長していく場であると考えます。授業では、子どもたちが主体的に課題解決に向けて人と関わり、対話し、それによって自分の考えを広げたり深めたりしていきます。また、係活動・委員会活動では、試行錯誤し友達と協力しながら、よりよい活動へと進めます。さらに、異学年交流や行事などでは、自分たちの成長を実感するとともに、自分は必要とされているという自己有用感を高めることができます。これら学校でのすべての教育活動が、様々な人と関わり、折り合いをつけながら、つながり合い、豊かな人間関係を築くための経験・学びに他なりません。

そして、近文第一小学校は、豊かな自然の中で、友達・教職員・保護者の皆様・地域の方々と温かな関わりをもってつながることができる、最高の環境だと思うのです。これからも、学校の役割、学校だからこそできる活動を大切に、子どもたち一人ひとりが安心して思いを表現し伝え合える豊かな人間関係づくり、学校づくりに努めていきたいと思います。

最後になりますが、今年も保護者・地域の皆様には、本校教育活動に多大なご支援、ご協力をいただき、職員一同、厚く感謝申し上げます。新しい年が皆様にとって、さらによい年になりますようお祈りいたします。

1月の生活目標 「笑顔や元気な声であいさつしよう」

スキー学習が始まります。今年度は、スキー場で行われるスキー学習にも保護者の皆様からボランティアを募りました。たくさんの方からの応援をいただけることとなり大変ありがとうございます。

たった1回しかないスキー場での授業ですので、時間を大切にして、けがなく安全に実施したいと考えております。当日はどうぞよろしくお願いいたします。

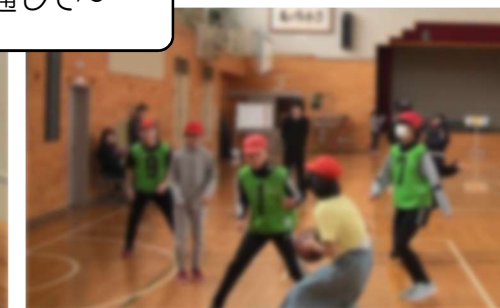
01/15	水	3学期始業式
01/20	月	委員会(後④)
01/22	水	ALT
01/23	木	小小・小中連携交流学习
01/24	金	スキー(5・6年)
01/27	月	クラブ⑧(反省)
01/31	金	避難訓練

近一っ子が学習の主役となる授業のあり方を目指して努力しています

12月は校内でたくさんの授業公開があり、一部、外部の方にも見ていただき指導を仰ぎました。



『対話』によって学びを深める子どもの育成
～効果的なICT活用による授業改善を通して～



←高学年の体育で使っているバスケットボールは、北海道が誇るバスケットボールチーム「レバンガ北海道」が寄贈してくださったボールです。

本格的なボールは、使う側の技術も求められますが、高学年は上達が早く、このボールを使って質の高いゲームを展開していました。

近一っ子の自主性が発揮される委員会活動・クラブ活動

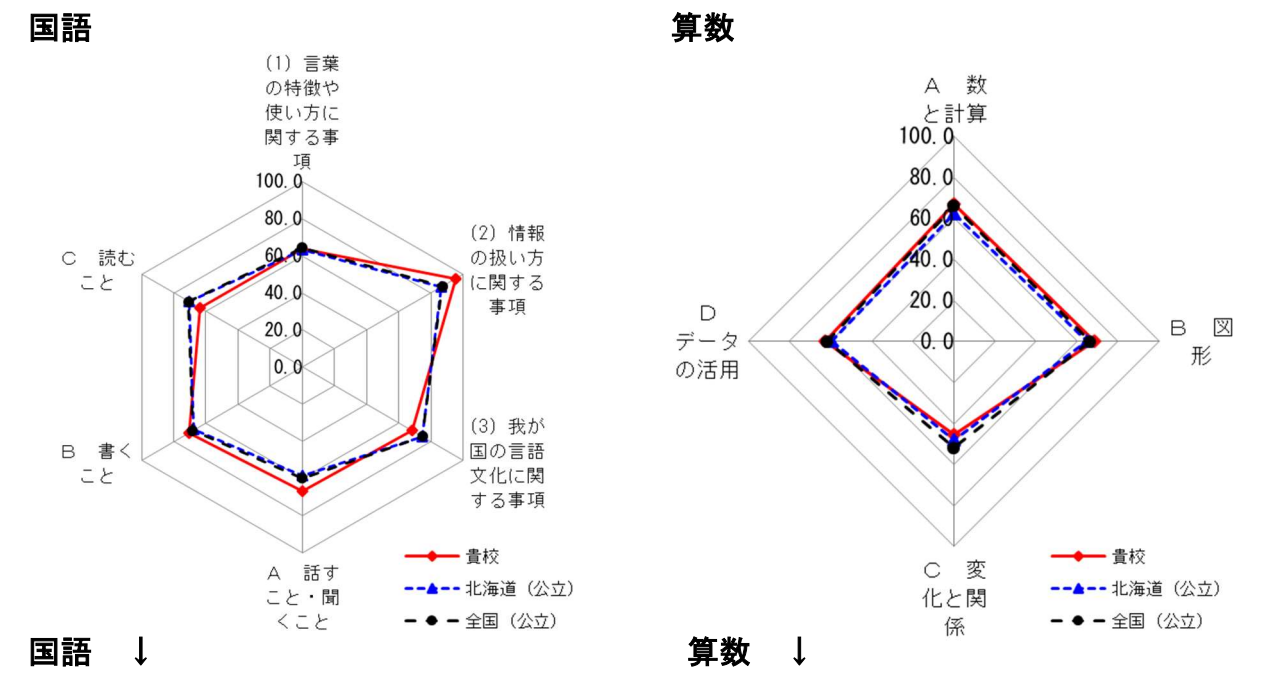
今、学校の授業は「先生が分かりやすく説明して教え込む授業」ではなく、「子どもが自分なりの方法で考え、周りの友達と対話しながら解決を目指す授業」が求められています。その様子は、委員会やクラブ活動の様子に似ています。この2つの活動では、以前から、先生方はサポートに徹し、児童が自分たちで決め、行動することを大事にしています。



令和6年度 全国学力・学習状況調査の概要

4月18日に6年生を対象として実施された全国学力・学習状況調査の結果を受けて、本校の概要をまとめました。併せて、本校の取組についてもお伝えいたします。

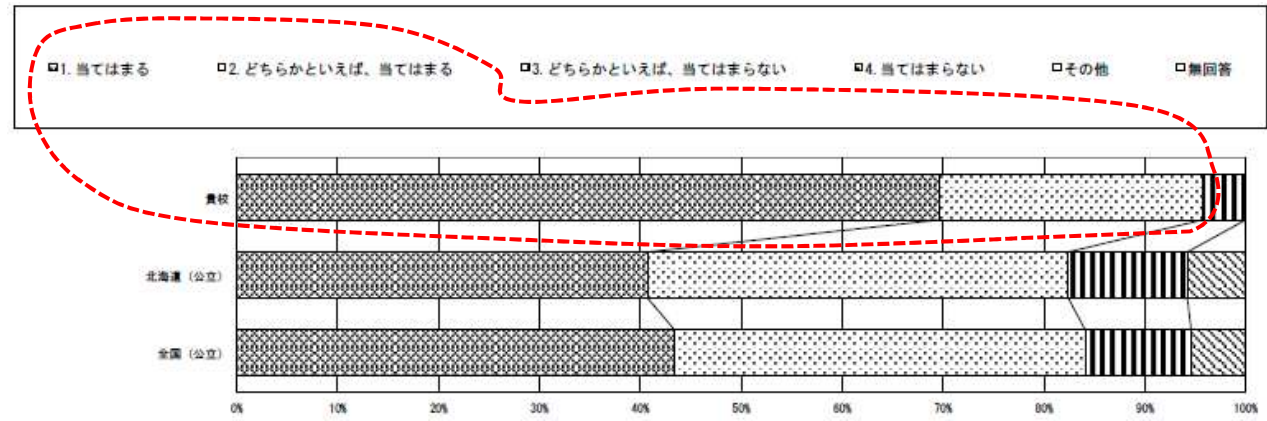
＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



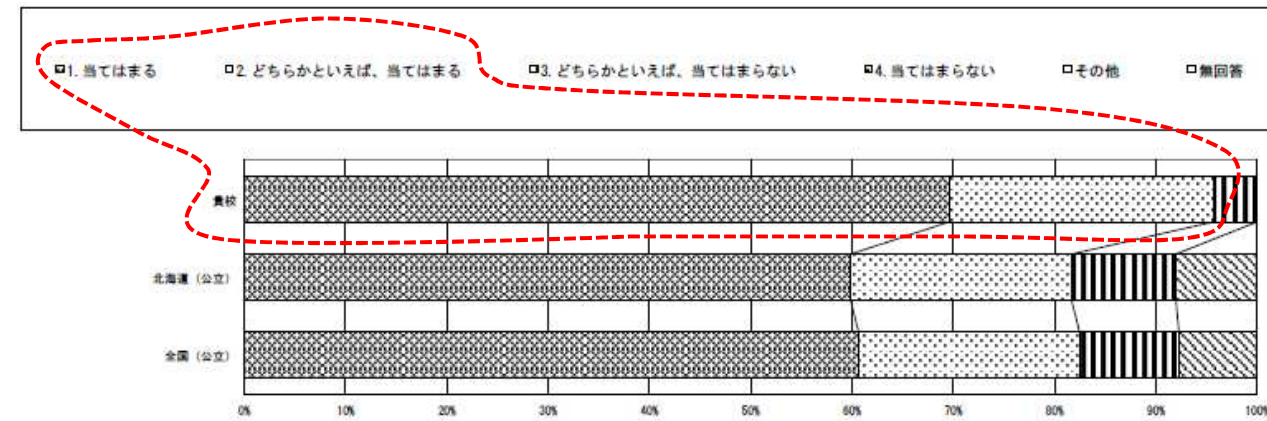
○ 情報の扱い方、話す・聞く、書く、の3分野について、全国の水準を上回る確かな力を身に付けていると言えます。 ▲ 読むことに関わる問題に弱さが見られます。長い文章を読み、そこから関係や心情を正しく読み取ることが課題と捉えています。また、読んで心に残ったことと、その理由を自分の言葉で表現する問題で、無回答率が増えています。 ▲ 調査が後半になるほどに正答率が下がり、無回答率が高まる傾向が見られました。調査時間の最後まで集中を維持して文章を読み、理解する粘り強さを身に付けさせたいと考えています。また、ある程度の文章量を読み理解する力の育成も必要です。	○ 数と計算、図形、データの活用の3つの領域について、全国の水準を上回る確かな力を身に付けていると言えます。 ○ 無回答がほぼなく、最後まで粘り強く取り組むことができました。 ▲ 変化と関係の領域で、速さと道のりが伴って変化することを、時間という目に見えない量で比較することに難しさがありました。 ▲ 選択式や記述式よりも、短答式の問題に間違いが多い結果となりました。 ▲ 算数においても、調査終盤にある情報量が多い問題において、正答率が下がりました。(文章を読み、資料となる表を見比べながら、桜の開花時期を予想・判断する問題でした。)
学校としての取組 - 読書活動を重視し、学校司書、読み聞かせボランティアの皆様の協力を得ながら様々な方法で興味・関心を高める工夫をしています。また、11月には読書強化週間として全校一斉で読書活動を充実させる取組を進めています。併せて、新聞に触れる場・読む機会も広げようとしています。 - 授業の中で、自分の考えを表し、タブレット端末で全体と共有する活動を取り入れています。自分の記述を確かめてから提出し、共有した全体の考えを比較・分類することで、自分の考えを再構築する等、自然に対話が生まれ、より深い学びにつながることを目指しています。	

児童質問調査より

Q: 自分にはよいところがあると思いますか。

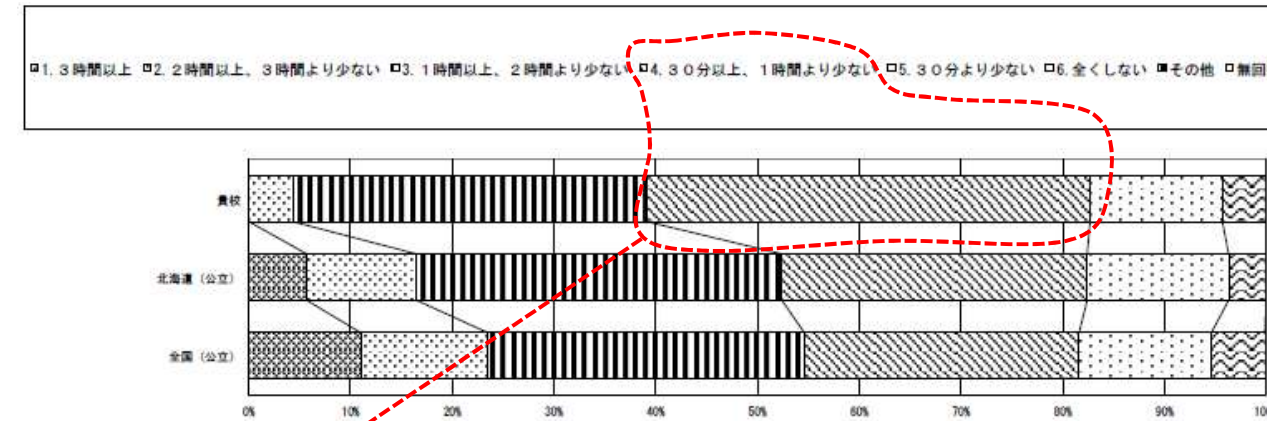


Q: 将来の夢や目標を持っていますか。



この2項目の高さが、自主的に学びに向かう原動力を生み出しています。周りの大人が良さを見取り、価値付けてどんどん褒めていきながら、がんばる粘り強さを家庭と学校で育てていきましょう。

Q: 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



家庭学習の推奨時間は「学年×10+10」分で、6年生は70分ということになります。それよりもちょっと少ない量という人が多いようです。小学校の6年間で、自分に必要な学習を自分で決め、自分に適した方法で進められることを目指しています。そのために、自分の学びを客観的に評価できるよう、毎時間の振り返りも大事にして取り組んでいます。